



令和8年度 果樹情報 第9号

(令和8年7月22日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (7月前半、果樹研究所)

平均気温は、第1半旬が21.6℃で平年より1.9℃低く、第2半旬が24.5℃で平年より0.9℃高く、第3半旬が26.8℃で平年より2.7℃高く経過しました。

この期間の降水量は72.0mmで平年比79.6%と平年並でした。日照時間は80.8時間で平年比97.9%と平年並でした。

2 土壌水分 (7月14日現在、果樹研究所)

7月14日時点の土壌水分(pF値:果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)は、深さ20cmで2.3、深さ40cmで2.1、深さ60cmで2.0となっており、適湿状態です(図1)。

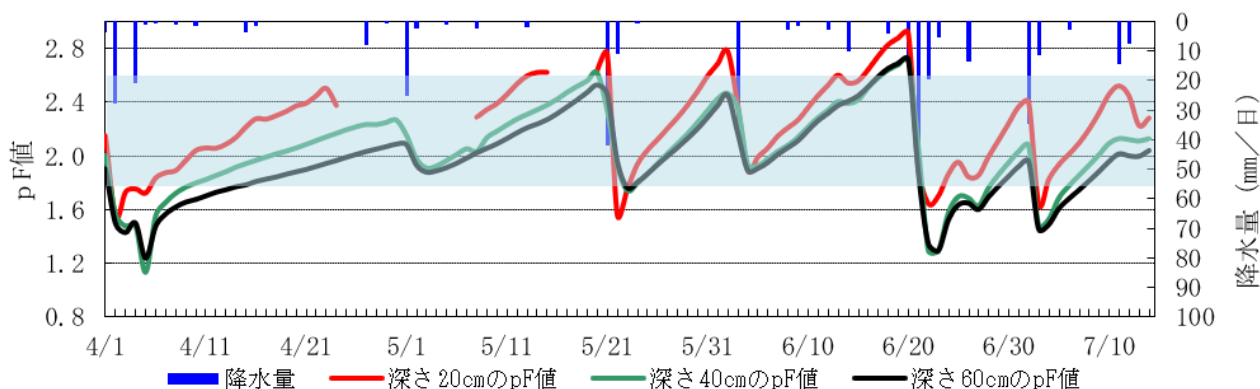


図1 土壌pF値の推移(果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8~2.6)

3 発育状況 (7月16日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が71.2mm(平年比119%)、側径が78.1mm(平年比123%)と平年よりかなり大きい状況です。「ゆうぞら」は縦径が56.7mm(平年比110%)、側径が55.4mm(平年比115%)で平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「あかつき」は平年より大きく、「ゆうぞら」は平年よりやや小さくなっています。

イ 新梢生長

満開後90日における「あかつき」の新梢長は13.6cm(平年比97%)、展葉数は16.3枚(平年比103%)と平年並で、葉色は平年よりやや低くなっています(表1)。「ゆうぞら」は、新梢長は19.1cm(平年比121%)と平年よりかなり長く、展葉数は18.5枚(平年比120%)とかなり多く、葉色は平年よりやや低くなっています。新梢停止率は、「あかつき」が106%、「ゆうぞら」が105%といずれの品種もやや高い状況です。

ウ 核障害の発生

満開後95日における「あかつき」の核障害発生は、核頂部亀裂が25%と平年より少なく、縫合面割裂が55.0%と平年より多い傾向です(表2)。

エ 収穫状況

「はつひめ」の収穫始めは6月26日で平年より9日早く、収穫盛りは7月1日で平年より7日早くなりました。

果実の大きさは301gで平年より大きく、糖度は11.7°Brixで平年並でした(表3)。

「日川白鳳」の収穫開始は7月2日で平年より8日早く、収穫盛期は7月4日で平年より9日早くなりました（表3）。果実の大きさは288gで平年よりかなり大きく、糖度は12.2° Brixで平年よりやや高くなりました。

「暁星」の収穫始めは7月9日で平年より10日早く、「ふくあかり」の収穫開始は7月13日で平年より7日早くなりました（表3）。

オ 収穫期予測

果樹研究所における、発育速度（DVR）モデルによる「あかつき」の収穫期予測は、気象庁の気象予報を反映した予測では、収穫開始日は7月23日ごろで平年より6日早く、収穫盛期日は7月26日で平年より6日早い見込みです（表4）。

なお、ももの収穫期は直前の天候の影響を受けやすいので、今後の気象予報に留意してください。

表1 ももの新梢伸長（満開後90日）

品種	新梢長(cm)			展葉数			葉色 (SPAD)			新梢停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	13.6	14.0	97	16.3	15.8	103	42.4	44.5	95	95.0	90.0	106
ゆうぞら	19.1	15.8	121	18.5	15.4	120	41.9	44.9	93	92.5	87.8	105

注) 平年は、1996～2025年の平均値

表2 ももの核障害発生状況（品種：あかつき）

年	満開後日数	30日	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	85日	95日	収穫果
2026	核頂部亀裂	12.5	20.0	5.0	50.0	35.0	25.0	25.0	10.0	15.0	25.0	-
	縫合面割裂	0	0	0	0	20.0	15.0	25.0	40.0	60.0	55.0	-
2000	核頂部亀裂	32.9	37.7	42.5	48.3	51.2	47.3	44.3	40.0	45.4	47.0	45.0
～2025	縫合面割裂	0.1	0	1.3	2.9	11.0	21.9	26.6	24.4	33.5	36.6	25.5

注) 平年値は2000～2025年までの平均値

表3 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/26	7/ 5	6/30	7/ 1	7/ 8	7/ 4	7/ 6	7/11	7/ 7	301	273	316	11.7	11.8	13.0
日川白鳳	7/ 2	7/10	7/ 3	7/ 4	7/13	7/ 6	7/ 9	7/17	7/10	288	237	251	12.2	11.3	13.3
暁星	7/ 9	7/19	7/15	未	7/23	7/18	未	7/27	7/24	未	222	198	未	13.0	14.2
ふくあかり	7/13	7/20	7/18	未	7/25	7/24	未	7/29	7/28	未	274	302	未	13.0	15.8
あかつき	未	7/29	7/25	未	8/ 1	7/29	未	8/ 7	8/ 4	未	284	341	未	13.1	14.3

注) 平年は、1996～2025年（「はつひめ」「ふくあかり」は2010年～2025年）の平均値

表4 もも「あかつき」の発育予測日（果樹研究所：7月15日現在）

	観測日		今後の気温経過			
	昨年	平年	気象予報	平年並	2℃高い	2℃低い
収穫開始日	7月25日	7月29日	7月23日	7月23日	7月23日	7月23日
収穫盛期日	7月29日	8月1日	7月26日	7月26日	7月26日	7月27日

注1) 平年は1996～2025年の平均値

注2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温（3～4週目の平均気温）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値

注3) 発育予測は誤差を生じる場合があることに留意する

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が 49.3 mm（平年比 112%）、横径が 62.0 mm（平年比 116%）、「豊水」は縦径が 49.0 mm（平年比 109%）、横径が 55.8 mm（平年比 113%）といずれの品種も平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「幸水」「豊水」とともに平年並となっています。

イ 新梢生長

満開後 90 日における「幸水」の予備枝新梢長は 104.2 cm（平年比 92%）で平年よりやや短く、不定芽新梢長は 102.2 cm（平年比 102%）と平年並でした（表 5）。予備枝新梢の葉枚数は 30.9 枚（平年比 100%）で平年並です。予備枝新梢伸長停止率、不定芽新梢伸長停止率はともに 100%となっています。

満開後 90 日における「豊水」の予備枝新梢長は 97.3 cm（平年比 89%）で平年より短く、不定芽新梢長は 79.5 cm（平年比 88%）と短くなっています（表 5）。予備枝新梢の葉枚数は 30.1 枚（平年比 102%）で平年並となっています。予備枝新梢伸長停止率、不定芽新梢伸長停止率はともに 100%となっています。

ウ 裂果発生状況

7 月 14 日（満開後 90 日）現在の「幸水」の裂果発生率は 3.0%で平年よりやや多くなりました（平年は 2.6%（1996～2025 年までの平均値））。

エ 生育予測

7 月 15 日現在の D V R モデルによる「幸水」の発育予測では、収穫盛期は 8 月 21 日ごろで平年より 6 日早い見込みです。

表 5 なしの満開後 90 日における新梢生長

品種	予備枝新梢長 (cm)			不定芽新梢長 (cm)			予備枝葉数 (枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	104.2	113.5	92	102.2	100.0	102	30.9	30.9	100
豊水	97.3	109.5	89	79.5	90.5	88	30.1	29.7	102

品種	予備枝新梢停止率 (%)			不定芽新梢伸長停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	100	98.2	102	100	98.0	102
豊水	100	97.3	103	100	98.6	101

注) 平年：新梢長は 1996～2025 年、葉枚数は 1998～2025 年の平均値

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が 64.2 mm（平年比 107%）、横径が 69.5 mm（平年比 101%）、「ふじ」は縦径が 57.6 mm（平年比 107%）、横径が 61.9 mm（平年比 106%）と両品種とも平年よりやや大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「つがる」は平年よりやや小さく、「ふじ」は平年並です。

(4) ぶどう

ア 着色開始

「巨峰」の着色開始期はまだ確認されていません。

「あづましずく」の着色開始期は、7 月 13 日で平年より 1 日早くなりました（表 6）。

表 6 ぶどうの着色開始の状況

品種	着色開始日							
	2026	2025	2024	2023	2022	2021	2020	平年
巨峰	未	7/11	7/11	7/10	7/14	7/19	7/21	7/18
あづましずく	7/13	7/ 8	7/ 1	7/ 4	7/11	7/12	7/17	7/14

4 栽培上の留意点

(1) 共通

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り、マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

ウ 降ひょう害対策

降ひょう被害が発生した地域では、令和8年6月3日付発行の農業技術情報第5号「ひょう害が発生した農作物の技術対策」（URL：www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/744791.pdf）を参考に対策を実施してください。

(2) もも

ア 早生品種の収穫

現在、早生品種の収穫に入っています。果実の成熟状況を確認し、適期収穫に努めましょう。特に、収穫後半は果肉の軟化に注意し、収穫が遅れないようにしましょう。

イ 中生品種の収穫前管理

DVRモデルによる「あかつき」の収穫期予測では、収穫開始日が平年より6日程度早い見込みです。核や胚に障害を持つ果実は早熟する傾向にあるので、収穫が遅れないように注意しましょう。

現在、果樹研究所内の「あかつき」は着色期に入っています。これ以降の品種についても、まもなく着色期に入るため、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シート設置など収穫直前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に実施しましょう。

(3) なし

ア 修正摘果

「幸水」は裂果の状況に注意して修正摘果を実施しましょう。修正摘果は裂果した果実、変形程度の著しい果実、果点コルク間の地色が薄い果実（肥大が停滞しやすい）及び満開後100日頃の横径が60mm未満の小さな果実を整理し適正着果に努めましょう。

「豊水」は満開後100日頃を目安に小玉果と変形果を摘果します。

(4) りんご

ア 修正摘果

果実肥大や果形、傷害の有無等の区別が付きやすい時期なので、小玉果、変形果、病虫害被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施し、適正着果に努めましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実肥大に伴い枝が下垂するので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ、防除効果の向上のため、支柱立てや枝吊りを実施しましょう。なお、高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど、着果位置に留意しましょう。

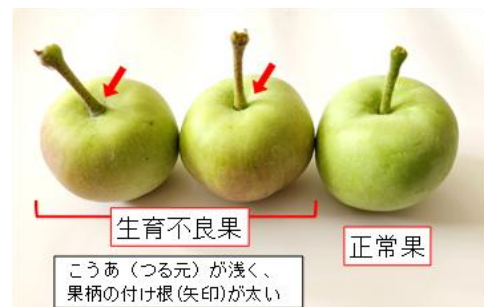


図2 りんごの生育不良果

(5) ぶどう

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なってくるため、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫方法

収穫はなるべく果実温度の低い早朝に行いましょう。また、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が低下するため、収穫時及び収穫後の調整を行う際には、穂軸を持って扱うように心がけましょう。

脱粒を防ぐために収穫後の果房の取り扱いは丁寧に行い、コンテナ内に果房を重ねたり運搬の際に揺れてこすれたりしないように注意しましょう。

ウ 新梢管理

長梢栽培において、一定の葉数が確保された8月以降の摘心は、果実品質の向上と新梢の充実が期待できます。8月上旬になっても伸長が続いている強い新梢は、20～25葉程度を目安にそれより先を摘心しましょう。摘心後も棚下が暗い場合は、徒長的な新梢を中心に、必要最小限に間引きを行いましょう。

伸長が停止しない副梢は2～3葉残して摘心し、伸長が停止しそうな弱い副梢は棚面が混み合わなければ、そのままにします。摘心後先端から発生する孫枝はまめにかき取りましょう。

5 病害虫防除上の留意点

本年は6月20日頃梅雨入りしたと見られていますが、降水量は地域によってバラつきがあります。

今後の天候しだいでは、感染が増加するおそれがありますので、気象情報に留意し、生育に応じた計画的な防除を実施しましょう。また、耕種的防除（病斑の除去や新梢管理）を徹底し、発生密度の低減を図りましょう。

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病

梅雨期の降雨によって、今後発生が急拡大するおそれがあります。

本病が多発すると罹病落葉によって病原の越冬量が増加し、翌年の多発生を招く原因となることから、10日間隔での薬剤防除の降雨前実施を徹底し、感染拡大を防止しましょう。

すでに発生が見られる園では、表7から薬剤を選択し、使用基準にしたがって適切に使用しましょう。ただし、これらの薬剤は、耐性菌が出現しやすいため、連用を避けるとともに、使用回数に十分注意してください。

また、トップジンM水和剤はすでに耐性菌の発生が確認されている地域があるため、使用に当たっては注意しましょう（平成30年農業総合センター参考となる成果）。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。



図3 リンゴ褐斑病発病葉（上）と見分け方（下）
（写真提供：病害虫防除所）

表7 リンゴ褐斑病二次感染期（7月以降）の防除薬剤

薬剤名	希釈倍数・使用量	薬剤系統	使用時期	本剤の使用回数
オンリーワンフロアブル	2,000 倍	3※	収穫7日前まで	3回以内
ストロビードライフロアブル	<u>3,000 倍</u>	1 1※	収穫前日まで	3回以内
トップジンM水和剤	<u>1,500 倍</u>	1	収穫前日まで	6回以内
ナリア WDG	2,000 倍	1 1※・7※	収穫前日まで	3回以内
パレード 15 フロアブル	<u>2,000 倍</u>	7※	収穫前日まで	2回以内
ファンタジスタ顆粒水和剤	<u>3,000 倍</u>	1 1※	収穫前日まで	3回以内
フリントフロアブル 25	<u>3,000 倍</u>	1 1※	収穫前日まで	4回以内
ユニックス顆粒水和剤 47	2,000 倍	9	収穫14日前まで	4回以内

注）登録内容は令和8年7月17日現在。希釈倍数・使用量の下線は試験研究成果に基づく。

薬剤系統3※、7※、1 1※は、耐性菌の出現を防ぐため、連用を避けるとともに、年間2回以内の使用が推奨されている。

イ リンゴ輪紋病、炭疽病

輪紋病の防除には、7月下旬～8月上旬ごろにベルコート水和剤を1,000倍で使用しましょう。なお、炭疽病の発生が多い園地では、ベルコート水和剤に替えてオーソサイド水和剤80を800倍で使用しましょう。なお、炭疽病の発生を抑制するには、園地周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物の除去が効果的です。

ウ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

梅雨期は灰星病の重点防除時期であるため、天候の推移に注意しながら降雨前に薬剤防除を行いましょう。花腐れや葉腐れが見られた園地では、防除効果の高い薬剤を必ず使用しましょう。なお、薬剤防除は使用時期（収穫前日数）に十分注意して実施しましょう。晩生種では、ホモプシス腐敗病の防除対策も重要となることから、7月下旬にダコレート水和剤を1,000倍で使用しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、第3世代成虫の誘殺盛期は7月3半旬ごろと予測され、第4世代の防除適期は7月4半旬ごろと推定されます（表8）。

本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、第2世代成虫の誘殺盛期は、7月4半旬ごろと予測され、第3世代の防除適期は、7月5半旬と推定されます（表8）。

本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守しましょう。

ウ ナシマルカイガラムシ

今後の気温が2℃高く推移した場合、第2世代のふ化盛期は8月1半旬ごろと推定されます（表8）。

カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除しましょう。

エ ハダニ類

高温期は増殖が速いので、ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

オ カメムシ類

本年は、病害虫防除所によるフェロモントラップ調査において、一部地点で平年より多く誘殺されています（7月15日付け令和8年度フェロモントラップデータ：
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/755878.pdf>）。

特に山沿いの園地では、飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行いましょう。

表8 果樹研究所における防除時期の推定（令和8年7月14日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ			
	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期
2℃高い	7月15日	7月19日	8月2日	8月6日
平 年 並	7月15日	7月19日	8月3日	8月7日
2℃低い	7月16日	7月20日	8月5日	8月9日

起算日：モモハモグリガ 第2世代誘殺盛期 6月24日（予測値）（演算方法は三角法）

今後の 気温予測	ナシヒメシンクイ				ナシマルカイガラムシ	
	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第2世代 ふ化開始	第2世代 ふ化盛期
2℃高い	7月16日	7月22日	8月8日	8月14日	7月25日	8月2日
平 年 並	7月16日	7月23日	8月11日	8月17日	7月26日	8月4日
2℃低い	7月16日	7月25日	8月15日	8月23日	7月28日	8月7日

起算日：ナシヒメシンクイ第1世代誘殺盛期 6月14日（予測値）
ナシマルカイガラムシ 3月1日
（演算方法は三角法）

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

福島県農薬危害防止運動を実施中

■農薬使用基準の遵守 ■農薬飛散防止対策の徹底 ■住宅地等における農薬適正使用の推進

実施期間：6月10日から9月10日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

（以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。）

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>